

母子健康手帳の活用状況について

金森仁作、小川一雄、橋本照、浜本真澄、
松木悠紀雄（愛媛県保健環境部）
木村真理（松山中央保健所）

1. はじめに

母子保健活動が効率的に実施されるためには、出生前から乳幼児期、学童期、青壮年期へと続く一貫した健康管理システムが確立されていなければならない。このシステムの中で、母子健康手帳をデータベースとしていかに位置づけるか、その検討が必要であるが、いずれにせよシステムの開始部分として最も重要な役割を担うはずである。

しかし現状では、この手帳が学童期へとつながる健康管理情報としてシステムの中で十分活用されていないという指摘もあり、その活用状況の把握が必要であるとともに、活用を高めるために情報記録としてどのような改善が必要であるかという点についても検討しなければならない。

今回われわれは、これらふたつの点に関して検討するための一段階として、母子保健事業従事者に対して、その活用状況および改善を必要と考える点等について調査を行った。

2. 調査対象及び方法

保健所および市町村において母子保健事業に従事している技術職員全員を対象として、郵送によるアンケート調査を行った。しかし個人宛とはせず、施設分の調査票をまとめて郵送し、無記名の調査票に記入後、まとめて返送してもらう方式をとった。この理由は、個人のプライバシーに触れる調査内容がほとんどないためと、回収率を上げるためである。返送のない施設については、督促して回収を行った。

調査内容は、事業内容と手帳記載項目別の活用状況と、手帳についての改善点の有無とその内容とが主体である。この場合の活用の意味については、事業実施の際の記帳や記録のチェックのため

の利用、あるいは健康教育や手帳活用の指導のための活用など、種々の意味を含むものであり、検討のためにはやや問題があるが、調査実施例としてはあらゆる面での活用状況を把握したいことから、被調査者の負担の軽減のために幅広い意味でこの語を使用した。

3. 調査結果

(1)被調査者について

調査票回収数は表1のとおり、保健婦277名（全数297名）、栄養士33名（全数37名）、その他23名（医師、助産婦ほか）である。業務を母子か老成人かで分掌している保健婦がおり、母子保健を担当していない栄養士もいるので、保健婦、栄養士については回収率100%である。

また、この両者の従事年数については、表2に示すように著しい差はなく、所属・職種別の比較

表1 調査票回収数

職 種	所 属	保健所	市	町 村	計
保 健 婦		92	86	99	277
栄 養 士		21	3	9	33
歯科衛生士		2	0	0	2
助 産 婦		0	0	9	9
そ の 他		2	3	7	12
計		117	92	124	333

表2 母子保健活動への従事年数

年 数	職 種	保 健 婦			栄 養 士
		H C	市	町村	
0～5年		46.7%	47.7%	52.5%	51.5%
6～10年		16.3%	25.6%	22.2%	21.2%
11年以上		37.0%	25.6%	25.3%	27.3%
回答なし		0	1.2	1.0	0
計		100	100	100	100

を行う場合にも、経験年数により生じうる偏りはある程度無視しうるものと思われる。

回答者が従事する母子保健業務について、その従事割合は表3のとおりであるが、町村の保健婦が母子保健活動全般に関与している状況、市の保健婦の機能が分化している状況、等が示される。なお、3歳児以降の業務については、保健所で実施する乳幼児の心臓検診、数町村で行われている歯科健診を除けば、その他の保健活動は実施されていないことが示された。

(2)保健婦の手帳活用の状況

母子健康手帳が住民側の自己健康管理記録とす

表3 回答者の母子保健業務従事割合

業 務	職 種 (所 属)			保健婦 (全)	栄養士
	保健所	市	町 村		
	%	%	%	%	%
婚 前 学 級	14.1	7.0	18.2	13.4	6.1
母子管理票作成	8.7	46.5	75.8	44.4	9.1
妊 婦 学 級	59.8	59.3	69.7	63.2	66.7
妊 婦 健 診	16.3	2.3	27.3	15.9	9.1
妊婦健康相談	30.4	36.0	54.5	40.8	12.1
新生児訪問	68.5	40.7	79.8	63.9	6.1
乳 児 健 診	85.9	51.2	94.9	78.3	69.7
育 児 相 談	63.0	87.2	84.8	78.3	42.4
育 児 学 級	39.1	27.9	69.7	46.6	81.8
1歳6ヵ月児健診	72.8	95.3	97.0	88.4	57.6
3 歳 児 健 診	79.3	52.3	93.9	76.2	81.8
そ の 他	28.3	10.5	5.1	14.4	6.1

図1. 母子健康手帳から母子管理票への転記状況 (保健婦)

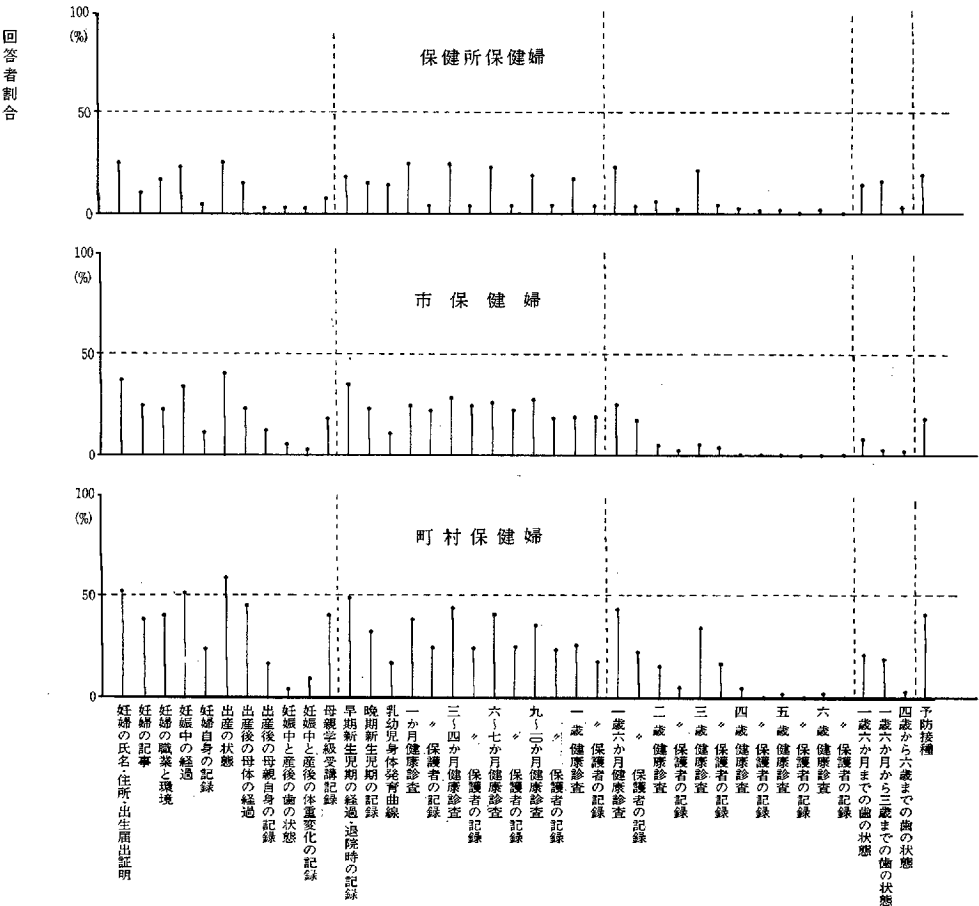
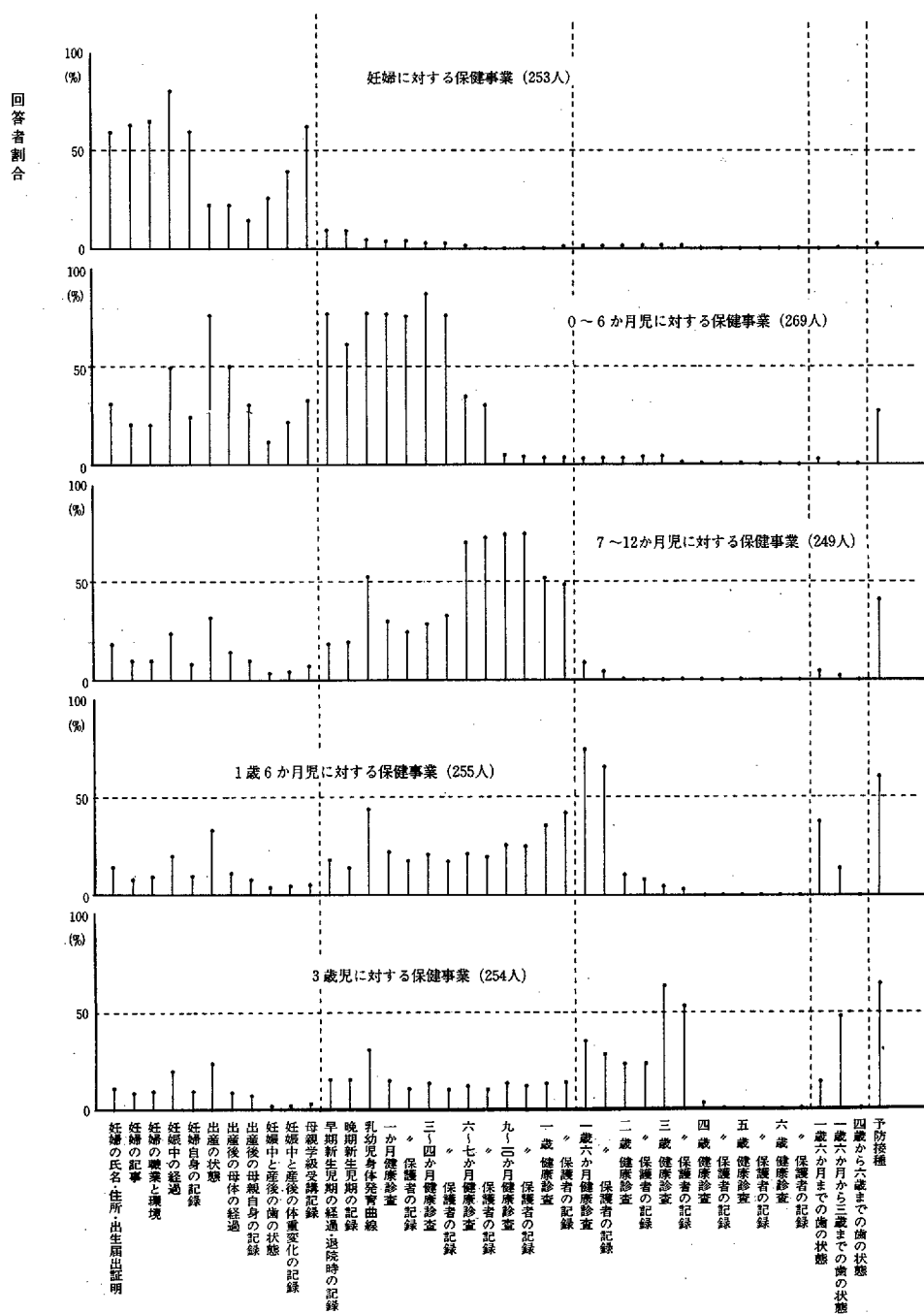


図2. 保健婦の母子健康手帳の事業別・項目別活用状況



れば母子管理票は事業主体の管理記録である。母子健康手帳から母子管理票への転記状況を示したのが図1である。回答のパターンとしては各所属とも同様であるが、町村では全般に転記の割合が高く示され、母子保健事業全般に力を注いでいる状況、また保健所では主に健診を通じて母子管理票に関与している状況が示されている。さらに市では保護者の記録欄の転記が比較的高く、母子管理票が児の発達状態の把握を指向するものとなっている状況がわかる。したがって所属により指向する情報の種類が異なることから言えば、ある程度地域の状況に合わせた手帳内容とすることも検討すべきであろう。

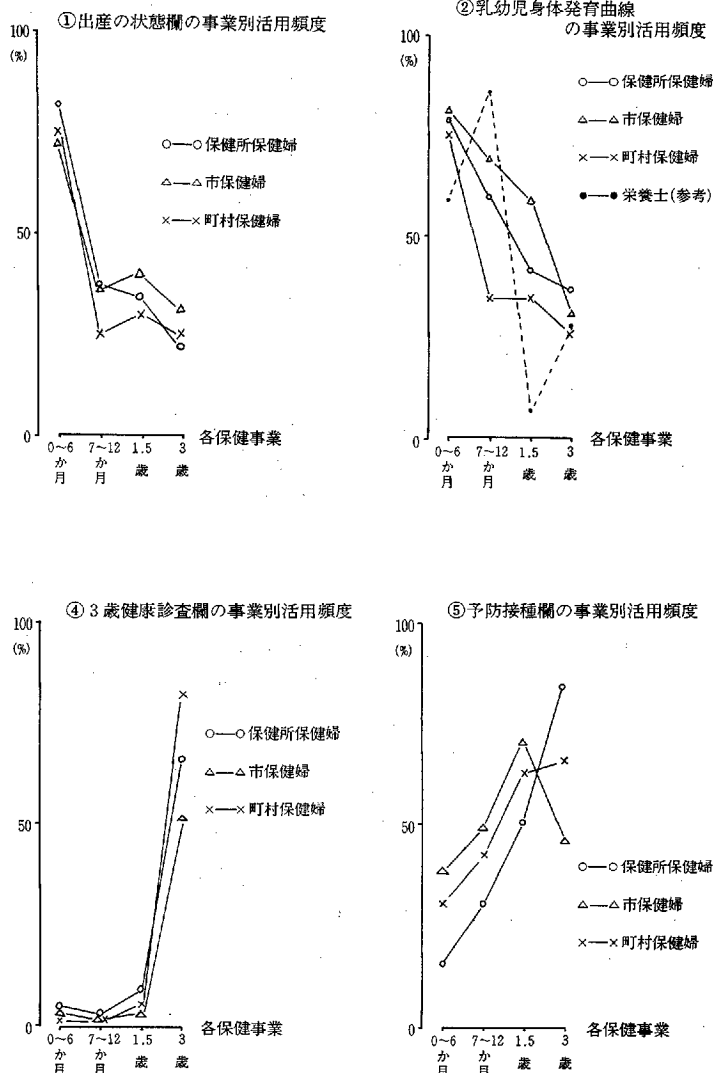
各保健事業毎に手帳記載の項目の活用状況を示したのが図2である。事業該当の項目が十分活用されるのは当然のことであるが、乳幼児期には出産の状態と乳幼児身体発育曲線の活用頻度が高く、これらのものはさらに内容を拡充する必要があると思われる。このうち特定の項目の事業別活用頻度を図3に示した。高齢の事業になるほど活用頻度が減少するものに身体発育曲線、増加するものに予防接種欄、乳児後期以降一定となる

ものに出産の状態欄がある。また所属により大きく活用頻度の異なるものもあるので、手帳の活用方法について事業主体の内部で十分検討してみる必要があろう。

(3) 栄養士の手帳活用の状況

栄養士の手帳活用状況は保健婦に比べて一般に低く、妊婦に対する保健事業で妊娠中の経過欄、乳児期の保健事業で身体発育曲線の活用を除けば50%を越える活用頻度を示す項目はない。また保健婦に比べ、児の出生や発達の状況に関心が低く、健診等での栄養指導のみに関与していること

図3. 手帳記載項目の事業別活用頻度



が考えられる。

(4)保護者の手帳活用状況

保健婦・栄養士からみて、母親が手帳のどの項目をよく活用しているか、またあまり活用しないかの回答率を示したのが表4である。妊娠中の記録が最も活用頻度が高く、母親の歯の記録が最も活用が少い。保護者が記入する児の発達の記録は、評価が両方に別れる。手帳が保健事業実施の際にのみ活用されるのではなく、手帳の全容を母親が熟知し、保健行動を起こすための指針となりうるものに改善することが必要であると思われる。

(5)母子健康手帳の改善について

手帳形状等の改変についての回答率を表5に示した。いずれについても現状維持が過半数を占めるが、時期別の色分けや項目の並べ変えについては改変の回答が多い。

手帳における母親教育のための説明頁についても、現状維持が過半数を占める(表6)。改変の回答が多い項目は、妊娠中の栄養と予防接種である。

これらのほかに、手帳の改善を要する点について自由記入欄を設けたが、同欄に記載のあったものは、保健婦では、保健所50.0%、市41.9%、町村50.5%であり、栄養士では30.3%であった。この内容については表6に示すとおりである。最も指摘の多い項目は、健康教育に関するものであり、このうちで主なものは、手帳の活用方法に関する指導内容の改善、発育・発達基準表の新設、予防接種時期等の一覧表の新設、など、計16.6%の保健婦が指摘している。次いで多い指摘は、手帳様式の改善(12.6%)であり、目次や見出し等の設置あるいは項目毎の色分け等により使い易くする、絵入り等で親しみ易い様式にして活用を高める、等である。そのほか、健康診査欄の一部改善、保護者記入欄の拡充、予防接種欄全体を見開き頁とする、予防接種の問診部分新設、手帳の堅牢化、歯科記録の健診頁への移設、等が主な指摘内容である。

これらの指摘を実現するためには、手帳に含まれる記録量の検討、大きさの検討、健康教育頁の内容を行動化にまで高めるための工夫等が必要であらう。

表4 保健婦・栄養士からみた母親の手帳活用状況

項目名	活用				活用している				活用していない			
	保健所	市	町	村	保健所	市	町	村	保健所	市	町	村
妊娠中の記録	40.2	39.5	40.4	15.2	3.3	4.7	4.0	3.0				
歯の記録(母)	2.2	2.3	1.0	3.0	47.8	51.2	56.6	42.4				
新生児期の記録	5.4	1.2	3.0	21.2	0	5.8	0	0				
発育の記録	29.3	32.6	27.3	48.5	4.3	3.5	3.0	0				
発達の記録(母記入)	16.3	23.2	26.3	6.1	17.4	15.1	10.1	18.2				
歯の記録(児)	0	0	1.0	0	21.7	15.1	17.2	15.2				
その他	0	0	1.0	0	1.1	1.2	2.0	0				
記入なし	6.5	1.2	1.0	6.1	3.3	3.5	8.1	21.2				
計	100	100	100	100	100	100	100	100				

表5 手帳形状等の改変について

形状等	回 答	保 健 婦				栄養士
		保健所	市	町	村	
厚 さ	これより もう少し厚く 回答なし	93.5 6.5 0	84.9 14.0 1.2	92.9 8.1 1.0	81.8 15.2 3.0	
大 き さ	これより もっと大きく 回答なし	81.5 17.4 1.1	77.9 20.9 1.2	90.9 9.1 1.0	78.8 18.2 3.0	
紙の色	これより 時期別色分け 回答なし	53.3 45.7 1.1	61.6 34.9 3.5	63.6 35.4 2.0	60.6 36.4 3.0	
項目の 順 序	これより 少し変える 回答なし	68.5 27.2 4.3	76.7 19.8 3.5	77.8 21.2 2.0	75.8 18.2 6.1	

表6 母親教育のための項目の改変について

項目	回 答	保 健 婦				栄養士
		保健所	市	町	村	
手帳に ついて	これより 必要ない 詳しく 回答なし	82.6 0 12.0 5.4	84.9 0 14.0 1.2	94.9 1.0 3.0 1.0	87.9 0 3.0 9.1	
よいお 母さん になる ために	これより 必要ない 詳しく 回答なし	72.8 5.4 17.4 4.3	74.4 1.2 22.1 2.3	86.9 1.0 9.1 4.0	66.7 0 24.2 9.1	
妊娠中 の栄養	これより 必要ない 詳しく 回答なし	59.8 4.3 30.4 5.4	74.4 0 23.3 2.3	79.8 0 19.2 2.0	48.5 0 45.5 6.1	
新生児 について	これより 必要ない 詳しく 回答なし	69.6 4.3 20.7 5.4	70.9 2.3 24.4 2.3	80.8 3.0 12.1 5.1	78.8 0 12.1 9.1	
予防接 種につ いて	これより 必要ない 詳しく 回答なし	58.7 4.3 29.3 7.6	67.4 1.2 27.9 3.5	63.6 1.0 31.3 5.1	69.7 0 24.2 6.1	

4. ま と め

母子保健事業に従事する、保健所・市町村の技術職員に対して、母子健康手帳の活用状況と改善を要する点等について調査を行った。一般に栄養士は保健婦に比して活用頻度は少く、健診や育児学級等での栄養指導を主とすることが示唆された。

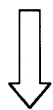
母子健康手帳については、現在内容は全国同一であるが、手帳に含まれる項目毎に市や町村で指向の差があることから、地域の実態に合わせた内容を一部取入れることも検討に値する。また出産の状態や予防接種など活用頻度の高い項目については、記録部分の拡充を考慮する必要がある。しかし逆に、項目毎の活用頻度が、所属毎に大きく異なるものについては、各事業主体内部で手帳の活用の仕方を再度検討してみる必要があろう。

技術職員からみた母親の手帳活用状況としては妊娠中の記録の活用が最も大、母親の歯の記録の活用が最も低い。しかし活用度が近いからと言っても当該記録は必要ないということではなく、全記録量に占める当該項目の比重が適当かどうかを再検討してもよいであろう。いずれにしても、健康管理記録として活用度を高めるためには、手帳全容を母親が熟知できて、健康管理行動へと導く指針となるように改善することが重要である。

保健婦からみて改善を要する箇所は、第1に健康教育の頁の充実であり、それはたとえば、手帳の活用方法の指導頁の改善、発育・発達の基準表や予防接種の時期別一覧表の新設などである。次いで手帳の使い易さのための工夫である。それはたとえば、目次や見出しをつける、項目毎の色分け、絵入等による親しみ易さ、などである。そのほか、健診や保護者記入欄の改善、予防接種頁全体を見開き頁に、歯科記録を健診頁に、等が指摘された。

表7 母子健康手帳の改善を要する項目等（保健婦）

項 目 等	人数	%	主 な 内 容
健康教育欄(計)	46	16.6	
手帳活用の指導	9	3.2	改善
発育・発達表	9	3.2	基準表を新設(含、育児指導)
予 防 接 種	9	3.2	接種時期等の一覧表を新設
全体の詳細化	6	2.2	
栄 養 欄	3	1.1	児の発達に合わせた指導、妊婦指導
医療制度説明	3	1.1	詳細化
事業全数の説明	2	0.7	新設(市町村独自)
健診制度の説明	2	0.7	新設
妊 婦 指 導	2	0.7	詳細化
新生児指導	1	0.7	詳細化
手 帳 様 式	35	12.6	目次、見出し等設置、項目別色分け、絵入り等
健康診査欄(計)	23	8.3	
乳 幼 児	18	6.5	乳児期の各月齢別化、相談指導欄拡充、4～6歳の簡略化、先股脱等
妊 婦	5	1.8	記録の詳細化、保健婦指導欄新設
保護者記入欄(計)	19	6.9	
発育・発達欄	15	5.4	重複を省く、問診充実、情緒面挿入
自由記録欄	4	1.4	余白増
予 防 接 種 欄	16	5.8	全体を見開き頁に、問診部分新設、接種機関名
手 帳 表 紙	15	5.4	カバー等を付け堅牢に
項 目 の 順 序	9	3.2	歯科記録を各健診欄に
健 診 受 診 票	6	2.2	適用期間の拡大
手帳使用期間	5	1.8	拡大して改変、学童期も通じて
歯 科 記 録 欄	4	1.4	一部改変
身体発育曲線欄	3	1.1	胸囲も記入
産後の記録欄	3	1.1	拡充
出生報告票	3	1.1	改変
育 児 学 級 欄	3	1.1	新設
予 防 接 種 票	2	0.7	新設
そ の 他	2	0.7	児の病気の記録欄新設、家族構成欄新設



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1,はじめに

母子保健活動が効率的に実施されるためには、出生前から乳幼児期、学童期、青壮年期へと続く一貫した健康管理システムが確立されていなければならない。このシステムの中で、母子健康手帳をデータバンクとしていかに位置づけるか、その検討が必要であるが、いずれにせよシステムの開始部分として最も重要な役割を担うはずである。しかし現状では、この手帳が学童期へとつながる健康管理情報としてシステムの中で十分活用されていないという指摘もあり、その活用状況の把握が必要であるとともに、活用を高めるために情報記録としてどのような改善が必要であるかという点についても検討しなければならない。

今回われわれは、これらふたつの点に関して検討するための一段階として、母子保健事業従事者に対して、その活用状況および改善を必要と考える点等について調査を行った。